

庄内川特定構造物改築事業

〔 JR新幹線庄内川橋梁 〕

説明資料

平成29年9月25日

国土交通省中部地方整備局
庄内川河川事務所

目 次

1. 事業の概要	
1) 流域の概要	1
2) 主要洪水	2
3) 事業の目的及び計画内容	3
2. 評価の視点	
1) 事業の必要性等に関する視点	
(1) 事業の投資効果	4
(2) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	5
(3) 事業の進捗状況、進捗見込みの視点	6
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針（原案）	7

1. 事業の概要

1) 流域の概要

庄内川は、その源を岐阜県恵那市のタ立山(標高727m)に発し、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。瑞浪市で小里川、土岐市で妻木川、多治見市で笠原川等の支川が合流し、岐阜・愛知県境に位置する玉野溪谷を抜け、春日井市高蔵寺で濃尾平野に出て、その後矢田川等の支川が合流し、名古屋市の北西部を流下して伊勢湾に注ぐ、幹川流路延長約96km、流域面積1,010km²の一級河川です。

- 流域面積 : 1,010km²
- 幹川流路延長 : 約96km
- 大臣管理区間 : 庄内川62.5km 矢田川7.0km、小里川2.6km、猿爪川1.8km、新田川0.6km
- 流域内市町村 : 19市4町(名古屋市、多治見市等)
- 流域内人口 : 約440万人
- 年平均降水量 : 約1,500~1,700mm(山間部)
約1,400~1,500mm(平野部)



小田井遊水地



小里川ダム



新川洗堰



2) 主要洪水

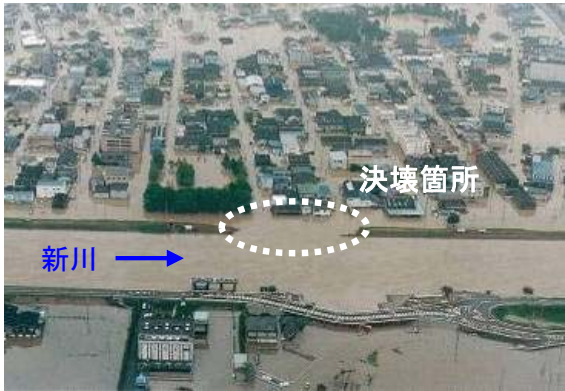
庄内川における主要洪水としては、昭和34年9月洪水(伊勢湾台風)、平成元年9月洪水(台風22号)、平成12年9月洪水(東海豪雨)、平成23年9月洪水(台風15号)などがあります。

平成12年9月洪水(東海豪雨)では、派川である新川の堤防が決壊したのをはじめ、名古屋市内でも広範囲に浸水被害が発生しました。

平成23年9月洪水(台風15号)では、中流部の下志段味地区※で越水による浸水被害が発生するとともに、多治見地区などにおいて内水による浸水被害が発生しました。

※名古屋市守山区

発生年月日	原因	基準地点流量		被害等
		枇杷島	多治見	
昭和32年 8月7日	秋雨前線	—	—	被災家屋: 22,428戸(愛知県)、4,540棟(岐阜県)
昭和34年 9月26日	台風15号 (伊勢湾台風)	—	—	被災家屋: 140,569戸(愛知県)、6,227棟(岐阜県)
昭和36年 6月27日	梅雨前線 台風6号	1,520	—	水害区域面積: 7,374ha(愛知県)、479ha(岐阜県) 被災家屋: 39,604棟(愛知県)、171棟(岐阜県)
昭和47年 7月12日	梅雨前線	1,600	1,330	水害区域面積: 229.3ha(愛知県)、344.8ha(岐阜県) 被災家屋: 832棟(愛知県)、1,515棟(岐阜県)
昭和50年 7月4日	梅雨前線	1,570	1,510	水害区域面積: 3,091.5ha(愛知県)、96.9ha(岐阜県) 被災家屋: 10,315棟(愛知県)、107棟(岐阜県)
昭和51年 9月8日	台風17号	1,270	770	水害区域面積: 3,476.5ha(愛知県) 被災家屋: 8,713棟(愛知県)
昭和58年 9月28日	秋雨前線 台風10号	1,930	1,400	水害区域面積: 526.6ha(愛知県)、8.4ha(岐阜県) 被災家屋: 7,871棟(愛知県)、164棟(岐阜県)
昭和63年 9月25日	熱帯低気圧 秋雨前線	1,600	1,420	水害区域面積: 317.9ha(愛知県)、111.9ha(岐阜県) 被災家屋: 1,896棟(愛知県)、94棟(岐阜県)
平成元年 9月20日	台風22号	1,860	1,840	水害区域面積: 27.6ha(愛知県)、62.1ha(岐阜県) 被災家屋: 84棟(愛知県)、571棟(岐阜県)
平成3年 9月19日	台風18号 秋雨前線	2,200	1,330	水害区域面積: 965.9ha(愛知県)、3.9ha(岐阜県) 被災家屋: 6,440棟(愛知県)、16棟(岐阜県)
平成11年 6月30日	梅雨前線	1,950	1,490	水害区域面積: 11ha(岐阜県) 被災家屋: 1棟(愛知県)、120棟(岐阜県)
平成12年 9月12日	秋雨前線 台風14号 (東海豪雨)	3,520	1,500	水害区域面積: 10,476.6ha(愛知県)、10.5ha(岐阜県) 被災家屋: 34,041棟(愛知県)、8棟(岐阜県)
平成23年 9月20日	台風15号	3,100	1,300	水害区域面積: 186.5ha(愛知県)、1.6ha(岐阜県) 被災家屋: 670棟(愛知県)、16棟(岐阜県)



平成12年9月洪水(東海豪雨)
新川決壊地点の状況



平成12年9月洪水(東海豪雨)
一色大橋付近の越水状況



平成23年9月洪水(台風15号)
多治見地区の状況



平成23年9月洪水(台風15号)
下志段味※地区の越水状況

出典)昭和32年～平成12年洪水 : 庄内川水系河川整備計画」より。
平成23年洪水 : 基準地点流量は庄内川河川事務所資料、被害等は水害統計より。

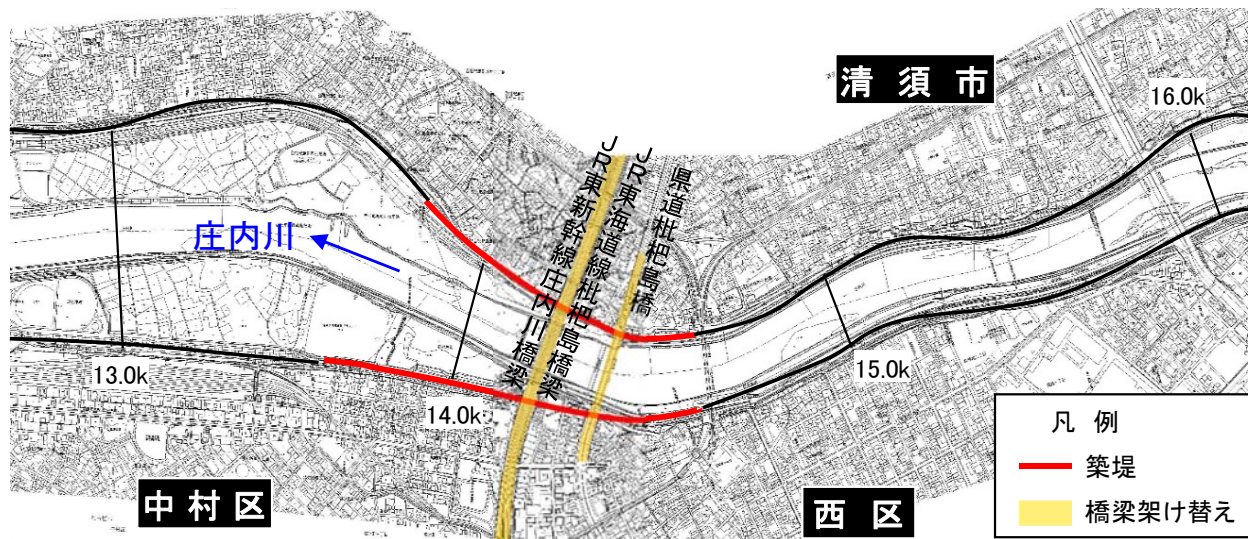
3)事業の目的及び計画内容

【事業目的】

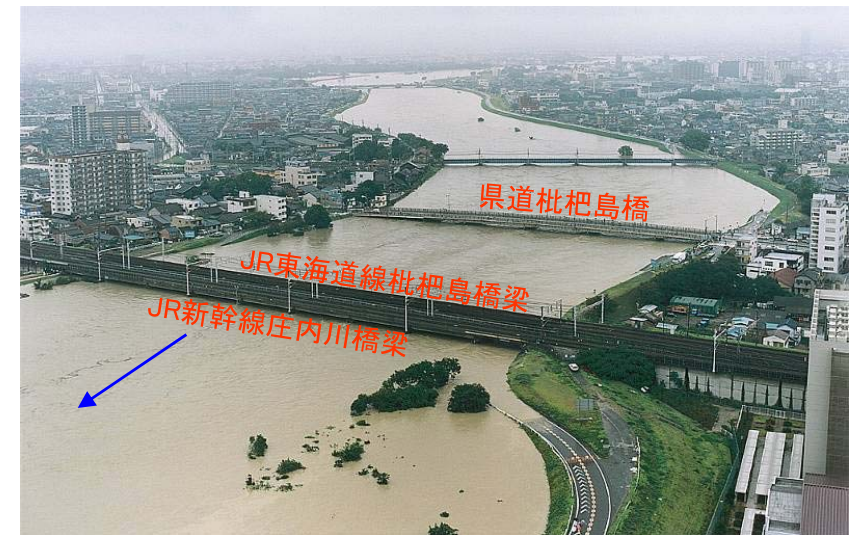
平成12年9月洪水(東海豪雨)により愛知県下で大規模な被害が発生しました。県道枇杷島橋では、洪水が橋桁に衝突するなど危険な状況でした。また、本事業区間は狭窄部で流下能力不足となっていることや、背後地に資産が集積していることから、治水上の重要区間となっています。

本事業は枇杷島地区3橋梁※の架け替えや築堤等を行い、流下能力を向上させ洪水による被害の軽減を図るものです。

※JR新幹線庄内川橋梁、JR東海道本線枇杷島橋梁、県道枇杷島橋



事業対象区間位置図

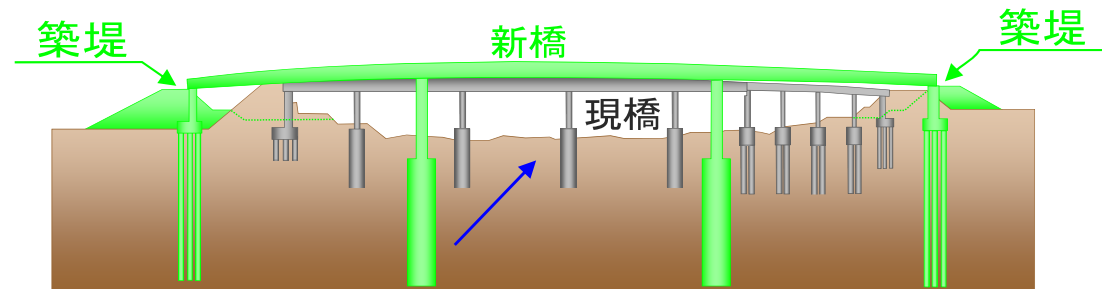


平成12年9月洪水(東海豪雨)の状況

【事業概要】

- ・事業費 … 684億円
- ・事業期間 … 平成14年度～平成43年度
- ・事業内容 … 橋梁架け替え、築堤、掘削

費用対効果 B/C = 26.5(H26再評価時)



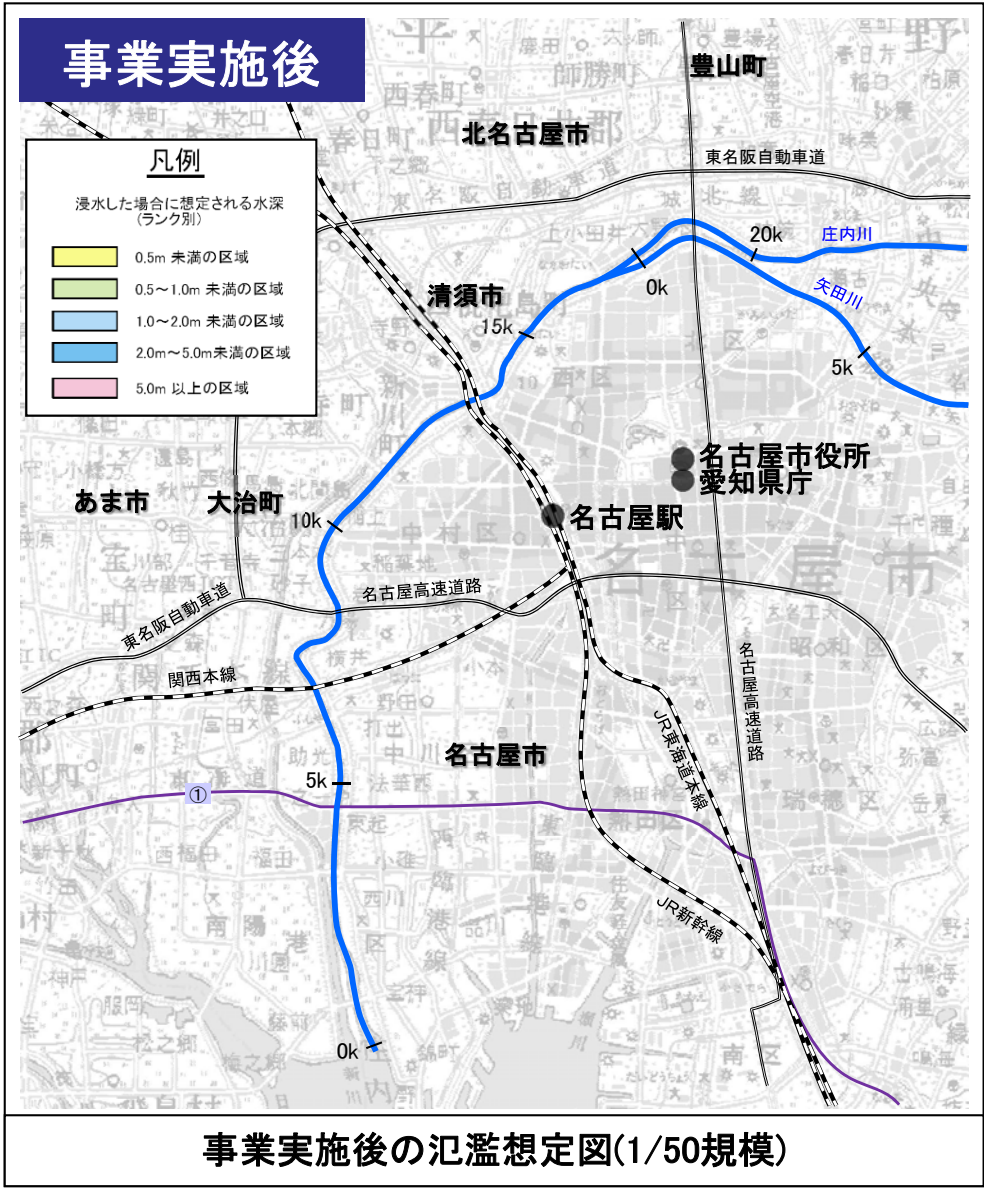
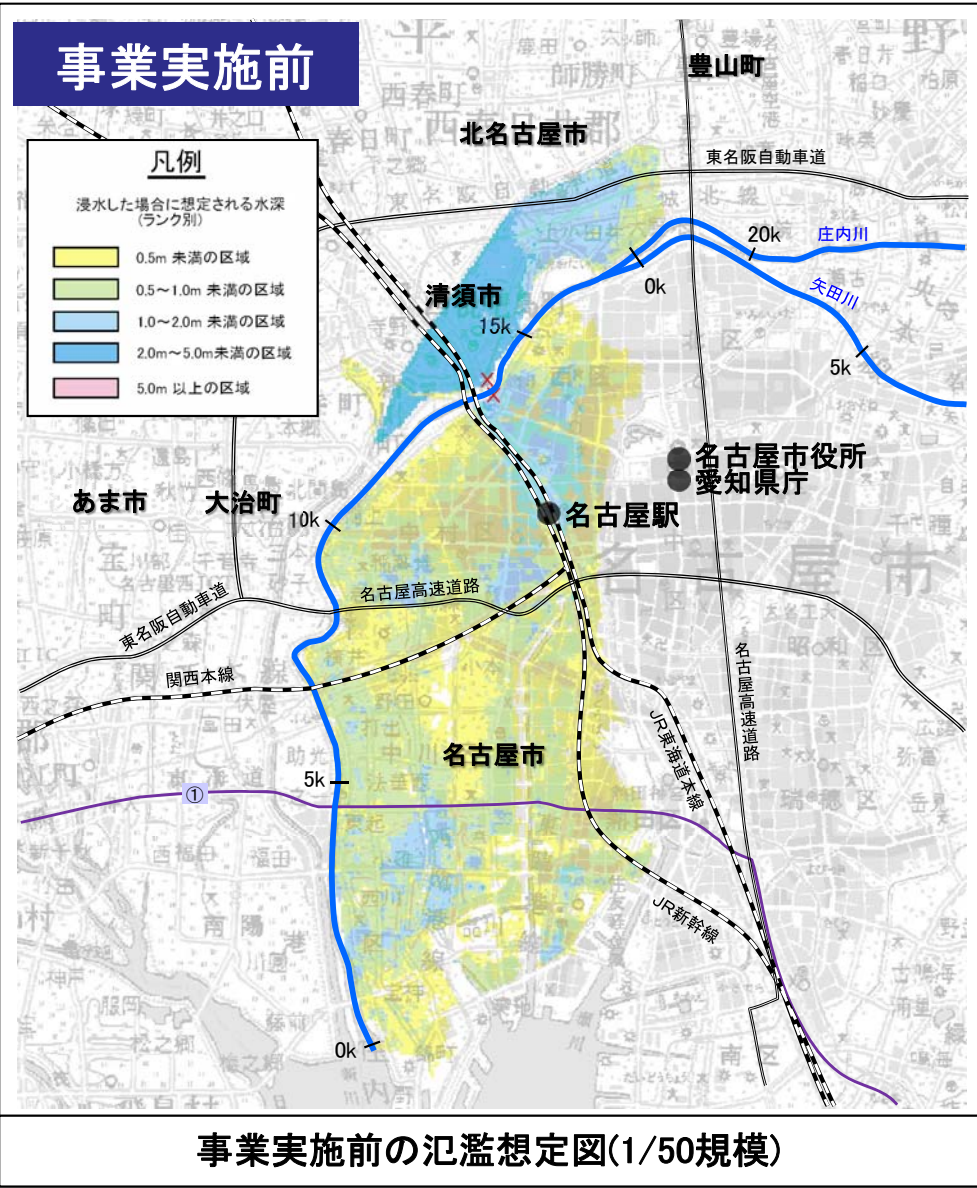
橋梁架け替えイメージ図

2. 評価の視点

1) 事業の必要性に関する視点

(1) 事業の投資効果

年超過確率1/50規模の洪水により想定される氾濫被害は、**浸水面積約6,100ha、浸水人口約52万人、浸水家屋数約24万世帯**であり、事業を実施することで氾濫被害は解消されます。

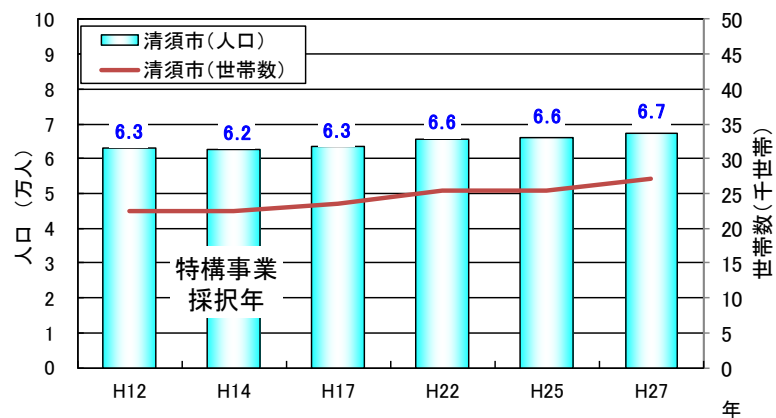
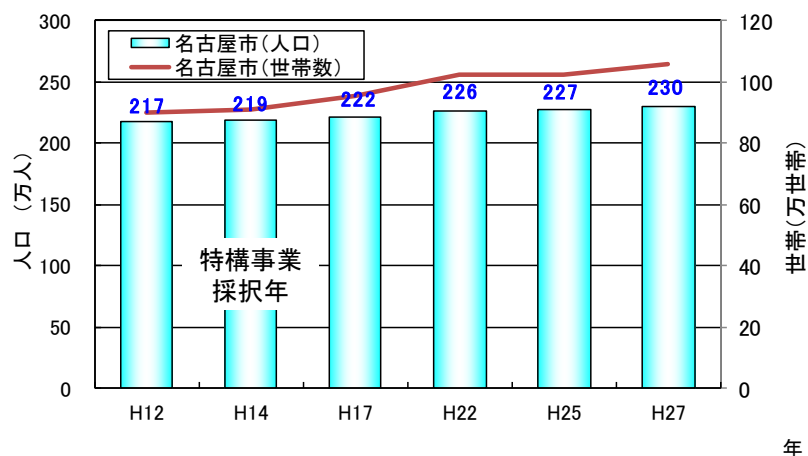


(2)事業を巡る社会経済情勢等の変化

本事業の枇杷島地区周辺の氾濫域に位置する名古屋市と清須市の人口は約236万人で、氾濫域には住宅等が密集しています。

本事業が採択された平成14年度以降、人口は緩やかに増加しています。

名古屋市、清須市の人口の推移



※清須市は、H17.7に西枇杷島町、清洲町、新川町が合併し、H21.10に春日町と合併し現在に至る

H14までは、西枇杷島町、清洲町、新川町、春日町の合計値で算出

H17は、清須市、春日町の合計値で算出

出典) H12、H17、H22は国勢調査より。

H14、H25は、愛知県統計年鑑、岐阜県人口動態統計調査結果より。

H27は、国勢調査人口等基本集計(総務省統計局)より。

H27.1時点の状況



背後資産、土地利用の状況

(3)事業の進捗状況、進捗見込みの視点

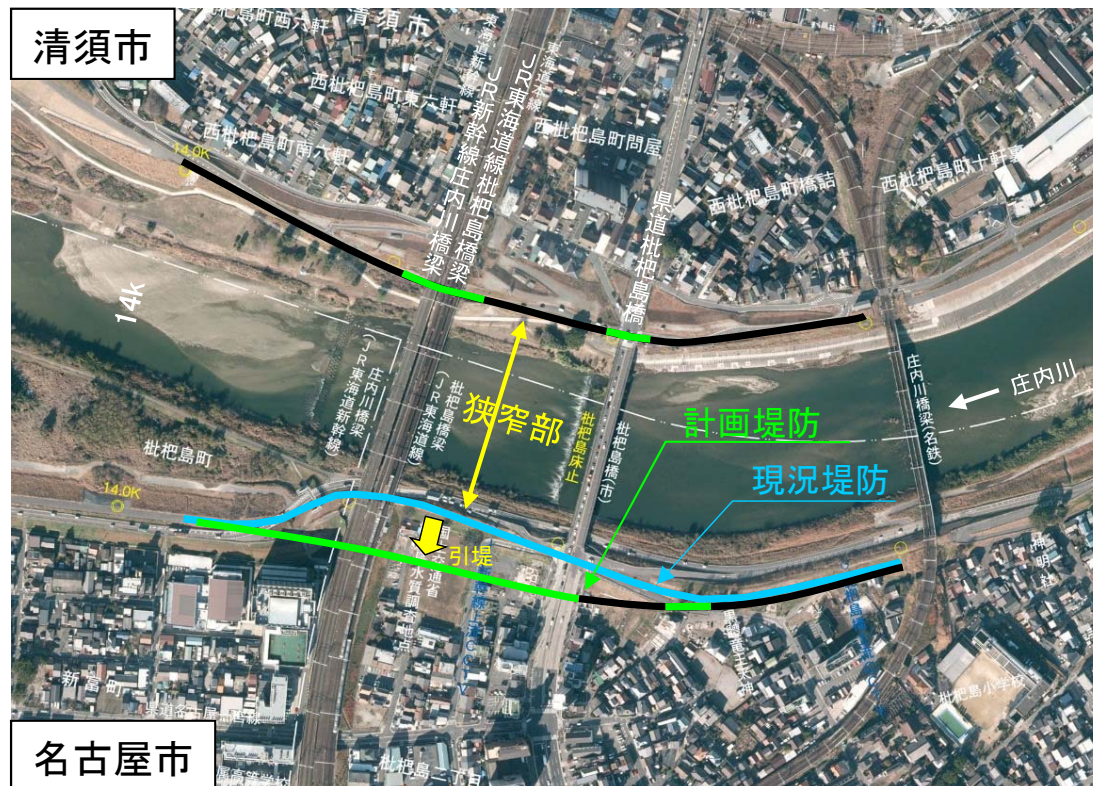
事業採択以降、用地取得、築堤を進めてきており、現在の進捗率は、事業費ベースで16%程度です。

(参考:平成26年再評価時の事業進捗率は約15%)

右岸については、橋梁取り付け区間を除き平成19年度までに築堤が完成しており、現在は左岸の築堤を進めています。

橋梁架け替えは、3橋の中でもっとも橋桁の低さが低い県道枇杷島橋を優先して進めており、平成26年9月には道路管理者(愛知県・名古屋市)と協定を締結し、現在橋梁拡幅用地の買収を実施中であり、平成33年の工事着手を予定しています。

その他の2橋については、鉄道事業者との調整を進めています。



事業対象区間位置図 (H24.12撮影)



築堤状況(左岸) (H29.7撮影)

凡 例

- 現況堤防
- 堤防整備未実施(計画堤防)
- 堤防整備実施済み

3. 県への意見聴取結果

愛知県への意見聴取結果は以下の通りです。

(愛知県)

- ・「対応方針(原案)」案に対して異議はありません。
- ・早期完成を目指して、着実な事業実施をお願いしたい。
- ・なお、事業実施にあたっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に努められるようお願いしたい。

4. 対応方針(原案)

以上のことから、庄内川水系河川整備計画と整合を図りながら、庄内川特定構造物改築事業を継続する。